報告とお礼

10.22「使用済み核燃料の行き場はないぞ! 全国集会」に約 500 人参加前日の 10.21「使用済み核燃料の行き場はないぞ! 討論集会」には 48 人

関電、使用済み核燃料の 原発構内での乾式貯蔵に布石

関電が 10 月 10 日に発表した使用済み核燃料に関するロードマップによって、関電の使用済み核燃料をめぐる情勢は一転しました。このロードマップで、関電は、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込み、いかにも近々使用済み核燃料の福井県外搬出が可能であるかのように見せかけていますが、いずれも実現の可能性はありません。「絵にかいた餅」です。

それでも、関電は、使用済み核燃料搬出の円滑化のため に原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとし、福井県 内での乾式貯蔵に向けての布石を行いました。

使用済み核燃料を貯蔵するプールが満杯になれば、原発 の運転継続が不可能になるため、発熱量と放射線量の減少 した使用済み燃料をプールから取り出して、プールに空き を作るための陰謀です。福井県知事は13日これを容認して います。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

(裏面、10.22 集会の基調アピールをご覧ください)。 何としても、関電と福井県に当初の約束「本年末までに使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に探す。探さなければ老朽原発を停止する」を履行させ、全ての老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

関電本店前で

「使用済み核燃料の行き場はないぞ! 全国集会」

10月22日、関電本社前(大阪市)で、標記の全国集会(主催:老朽原発動かすな!実行委員会)が開催され、関西各地、福井、愛知、岐阜の脱原発を願う市民、市民団体、労働組合、全国の原発・核施設立地からの代表など、約500人のご参加を頂きました。「使用済み核燃料」を主課題とした全国集会は初めてのことだと考えられます。

集会の冒頭、関電に向かって抗議のコールの後、主催者 挨拶にたった中嶌哲演さんは、関電の約束違反と福井県知 事の対応を厳しく批判されました。実行委員会の木原(筆 者)は「使用済み核燃料の行き場はないぞ!」と題した基 調アピールを行い、使用済み核燃料の発生源・原発の即時 廃炉を訴えました(裏面参照)。

続いて、使用済み核燃料問題を抱える地元から、核燃料 廃棄物搬入阻止実行委員会(青森)の中道雅史さんおよび 原発住民運動福井嶺南センター(若狭)の山本雅彦さんか ら活動報告と闘いへの決意表明を頂きました。柏崎からは 中山均新潟市議会議員のメッセージ、同時刻に集会を行っ ている上関からは、上関町民の会、祝島島民の会、上関の 自然を守る会、原発いらん!山口ネットワーク、原水禁山 口県民会議の連名でのメッセージ、伊方原発前で集会を開 いている伊方からは四国ネットワークのメッセージが届き、 代読されました。志賀原発をはじめ全国からの参加者が紹 介されたあと、福島の仲間と女たち、再稼働阻止ネット、 志賀原発、浜岡原発、島根原発、若狭の原発立地や周辺地 域(岐阜を含む)で脱原発を闘う住民をはじめ全国からメ ッセージが届いていることが紹介されました(メッセージ 集として配布されました)。今も避難を続ける浪江町の住民 からも厳しい現状が報告されました。

関電に向かっての再度のコールの後、関西から参加した市民団体、労働団体からのアピールが続きました。滋賀の「原発のない社会へ 2024 琵琶湖集会実行委員会」、大阪の「ストップ・ザ・もんじゅ」「原発ゼロの会」、兵庫の「脱原発 明石たこの会」、奈良の「原発ゼロ・被災者支援 奈良のつどい実行委員会」が市民団体を代表して、「大阪ユニオンネットワーク」「大阪平和人権センター」「全労連近畿ブロック」が労働団体を代表して、各々の活動の報告や脱原発への決意を述べられました。

最後に集会決議で「まず使用済み核燃料の発生源・原発 を全廃し、その後、使用済み核燃料の処理・処分について 広範な議論をまき起こそう」と確認しあい、力強い「使用済み燃料を増やし続ける関電糾弾! 原発全廃!」のコールの後、西梅田公園から梅田に向けてのデモに出発しました。なお、集会決議の全文は「老朽原発うごかすな!ニュース112号」に掲載しています。

10月21日、京都で 「使用済み核燃料の行き場はないぞ! 討論集会」

前記の 10.22 全国集会に先立って、21 日午後 6 時 15 分~8 時 45 分まで、京都で標記討論集会が開催され、ZOOM参加も含めて、48 人が学習、意見交換を行いました。

集会では、まず、青森、若狭、山口からの報告を頂きました。

青森の中道雅史さんは、再処理工場や使用済み核燃料貯蔵施設が青森に建設されるに至った経緯を述べた後、「再処理工場稼働の見通しは全くない」、したがって「再処理するまでの中間貯蔵」として使用済み核燃料の貯蔵を引き受ければ、永久貯蔵になりかねないとし、搬入阻止の決意を述べられました。

若狭の山本雅彦さんは、関電、福井県、政府の「原発運転継続ありき」の「出来レース」に立地住民の多くが反発していること、関電は、使用済み核燃料の原発構内での乾式貯蔵を企み、交付金目当ての原発推進派がこれを容認しようとしているが、永久貯蔵につながりかねないと危惧する声も大きいことを紹介され、また、関電の使用済み核燃料の上関への搬出など許されることではないことを強調されました。

山口の三浦 翠さんは、8月に中国電力と関電が結託して上関町に、唐突に「使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設のための調査」を申し入れ、上関町長が、ほとんど審議もせずにこれを受け入れたことに対する住民の怒り、周辺自治体の反対表明を紹介され、「上関には絶対に中間貯蔵施設を作らせない運動を展開し、関電の老朽原発を停止させたい」との連帯のアピールをされました。

お3方のご講演の後、会場および ZOOM 参加の全国の皆さんの活発な討論が行われ、「使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して燃料プールを空ければ、そこに新しい使用済み核燃料の搬入を許すことになり、原発の運転を継続させることになる。まず、行き場のない使用済み核燃料の発生源・原発を全廃し、その後に、使用済み核燃料の処理・処分についての広範な議論を巻き起こそう!」を確認しました。

10.22 全国集会、10.21 討論集会に、 ご支援、ご参加頂きました皆様、 ありがとうございました。

老朽原発うごかすな!実行委員会(連絡先090-1965-7102木原)









10.22「使用済み核燃料の行き場はないぞ! 全国集会」およびデモ行進



22日、大阪市北区中島さん(中央)=

が変然科の行き易はない。「老朽原発うごかす「老朽原発うごかす」で、大阪市北区の関西は、実行委員会」は22

原

発全廃

関

電前で集会

で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国各地から50 で、全国集会」を開

関町など使用済み核燃 関電が共同で建設を 関電が共同で建設を 関電が共同で建設を 関電が共同で建設を 対を呼びかけました。 大阪市 で開く1万人集会の成 の力を呼びかけました。 大阪市 で建設を は、対している山口県上

2023年10月23日しんぶん赤旗

料の地元の各地、福島県浪江町からの避難者、関西各地、労働組者、関西各地、労働組者、関西各地、労働組力がおからの避難

10.22 全国集会基調アピール

本日は、かくも多数の皆様にご参集いただき、ありがとうございます。使用済み核燃料の行き場はないにも拘らず、老朽原発まで再稼働させ、「原発依存社会」に向かって暴走する岸田政権、電力会社、原子力ムラに対する怒りの結集であろうと考えます。

さて、原発を運転すると、核燃料中で核分裂するウランや プルトニウムの減少によって、中性子発生数と発熱量が減少 し、運転に不都合な各種の放射性元素が生成する一方、燃料 被覆管に腐食や変形が生じます。したがって、核燃料を永久 に使用することは出来ず、一定期間燃焼させると、新燃料と 交換せざるを得なくなり、使用済み核燃料が発生しますが、 使用済み核燃料は、発生直後には膨大な放射線と熱を発しま すから、燃料プールに水冷保管して、放射線と発熱の減少を 待たなければなりません。

そのプールが、今、満杯になろうとしています。満杯になれば、原発を運転できなくなるために、全国の電力会社は、 プールのリラッキングや、放射線量や発熱が減少した燃料を 乾式中間貯蔵することによって、プールに空きを作り、原発 の運転を継続しようとしています。

政府も乾式中間貯蔵に躍起です。燃料プールが満杯になって、原発が停止すれば、「第6次エネルギー基本計画」が謳う「2030年には原発電力の割合を22%」の実現が不可能になるからです。

皆様ご周知のように、使用済み核燃料を保管するプールは「むき出しの原子炉」とも呼ばれ、極めて脆弱です。とくに、発熱量や放射線量が膨大な新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。このことは、福島原発事故後、4号機のプールが冷却水を失って、火災に至り、放射性物質が放出されて、首都圏まで壊滅的被害をこうむる危機にあったため、被曝労働覚悟で燃料を取り出し、6号機のプールに移して、危機を回避した事実からも明らかです。

新しい使用済み核燃料の発生を許してはなりません。使用済み核燃料の発生源・原発の稼働を許してはなりません。

ところで、関電は 1996 年に、使用済み核燃料の福井県外搬出を当時の福井県知事に約束しています。再処理工場が稼働すると楽観しての約束だったのです。しかし、再処理工場の稼働が期待できない現状では、福井県外に中間貯蔵地を探さざるを得なくなっています。一方、関電は一昨年、福井県知事に「使用済み核燃料の中間貯蔵地を 2023 年末までに福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」と約束していますが、未だに候補地を見出していません。切羽詰まった関電は、「保有する使用済み核燃料のわずか 5%のフランスへの搬出」や「上関での中間貯蔵地建設調査」などの小手先の奇策と詭弁を弄して、この約束を反古にしようとしています。

これに関して、福井県から説明を求められた関電は、今月 10日、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込んだ工程表を示し、搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとしています。「絵に描いた餅」ですが、福井県知事は13日にこれを容認しています。

「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

何としても、関電と福井県に当初の約束を履行させ、全ての老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

政府は、使用済み核燃料は、将来、再処理するから、それまで中間貯蔵するとしていますが、再処理工場が稼働する見通しはありません。したがって、一旦中間貯蔵を引き受ければ、永久貯蔵を強いられることになります。関電の原発電気を消費したことも、作ったこともない上関や青森に、交付金をチラつかせて、中間貯蔵を押し付けることを許してはなりません。

まず、使用済み核燃料を増やす原発を全廃し、使用済み核燃料の処理・処分に関する広範な議論を巻き起こしましょう!

最後にお願いです。岸田政権は、数を頼んで、5月末に「原発推進関連法」を成立させました。また、8月24日には、福島原発でたまり続ける放射能汚染水の太平洋への放出を開始しました。福島県漁連、全国漁連をはじめ、世界の人々の反対の声を踏みにじった暴挙です。

ところで、「原発推進関連法」が成立しましたが、まだ施 行されてはいません。したがって、民衆の目に見え、耳に聞 こえる行動の爆発によって、骨抜きに出来、実行不能に追い 込むことも出来ます。

私たち「老朽原発うごかすな!実行委員会」は、来る 12 月 3 日、大阪の「うつぼ公園」で、「とめよう!原発依存社会への暴走 1 万人集会」を開催し、老朽原発の運転をはじめ、原発推進に暴走する岸田政権や電力会社に「NO」を突き付けます。

いま、多くの人々の共感を得ている3つの課題「使用済み核燃料の行き場はないぞ!」「老朽原発うごかすな!」「放射能汚染水を流すな!」を前面に押し立てて、原発全廃の大きなうねりを出現させましょう!

皆様のご支援、ご参加をお願いします。

なお、本日、この全国集会と連帯する集会が、上関および 伊方で開催されています。上関、伊方をはじめ、全国で原発 のない社会を望み、核燃料サイクルに反対して闘う皆さんと 連帯して、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を 目指して共に前進しましょう! 有難うございました。

原発のない社会を目指して、起死回生の 「とめよう!原発依存社会への暴走 1万人集会」を実現しよう!

日時:12月3日(日) 午後1時場所:うつぼ公園(大阪市西区)

(大阪地下鉄 四ツ橋線・中央線 本町駅下車)

デモ出発:午後2時30分(御堂筋を難波まで)

主催:老朽原発うごかすな!実行委員会

(連絡先:090-1965-7102)